

令和4年10月14日

10月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県では原木生産は順調だが、台風の影響で共販所への入荷はやや鈍い。鹿沼、矢板は順調であるが、大田原は若干減少。スギ柱材の値動きは少なく、ほぼ保合だが、新材が出始め4m中目材は値上がり。ヒノキ材は4m土台材は弱保合だが、3m柱材、4m中目材が上昇。間伐材、小径木の価格、数量は例年通り横ばい。

群馬県では虫害木が多く、工場では仕入を一時的に停止。原木価格は下落。引き合いは全体的に減少傾向。首都圏の製品市場からの受注が少ない。製品在庫は増加し、下地材、貫、胴縁等がダブっている。製品価格は羽柄材とスギ柱がやや下落、平角、母屋角は横ばい。一部で柱、間柱の投げ売りが散見される。

2. 米材

産地では米国内の製材品価格は大幅な調整になっているが、原木価格は小幅の調整にとどまっている。カナダBC州の製材工場も生産調整を行っており、原木在庫は徐々に増加し、原木価格も下落している。原木輸出最大手のウェアーハウザー社の組合員約1,200人が9/13、ストに突入し、同社の原木ヤードの入荷、出荷とも停止中である。米国内の原木在庫は存在するが、積めない状態。日本の米材製材最大手がカナダへの緊急配船を行ったことで対日向けソートの在庫は一気に引き締まった。米マツ IS 級並の10月積み対日輸出価格は現時点で未定。現地SPF製材工場では15~20%の減産を継続している。木材需要は更なる利上げによる景気後退で弱い。ランダムレングス紙発表の15種平均価格(10/4)は\$512/M、9月頭に比べ8.2%の下落。

8月原木入荷は166千 m^3 で今年2月に次ぐ低水準、1~8月累計は1,644千 m^3 (前年同期比3.1%増)。出荷は186千 m^3 で入荷同様に低水準、1~8月累計は1,627千 m^3 で前年同期比4.2%増。在庫は増加し214千 m^3 となり、在庫率は1.01ヵ月と前月に続き1ヵ月越え。国内港頭在庫の増加が続き、輸入製材品の荷もたれ感に影響され、国内挽き製材品の荷動きも緩慢になってきた。第4・四半期の欧州産集成材の先物価格の大幅下落が決定的となり、国内米材製材最大手は9/21に製材品価格の値下げを発表した。東京木材埠頭の9月製品入荷は12千 m^3 (前月比26.5%減)、出荷は15千 m^3 (同5.1%減)、在庫は46千

m³(同 5.0%減)。正角、割物とも荷動きは悪い。

3. 南洋材

サラワク州では北部、特にバラム川上流域以外は若干の降雨はあるものの天候は極めて良好。伐採原木は相変わらず径の細いMLHが主である。9月のサラワク積みはインド向けの2.8万m³/1船のみで、インドではルピー安により購買力が弱くなり、供給過多になっている。PNGでは天候不順で原木生産量は少ない。ソロモンは中国の不調もあり、原木価格は下落。サバ州ではまだ原木輸出の実績はない。10月予想の原木入荷は14千m³、出荷は8千m³、在庫14千m³。製材品入荷は30千m³。フリー板の市場は悪く、今後入荷は減少の見込み。

4. 北洋材

日本市場の不振により産地への新規発注は殆ど無い状態。産地側は夏場で良質原木が少なく、売り焦っていない。一部、在庫商品の処分売りもあるが、商売は成立しない。中国市場の低迷や欧州向け輸出がなくなったことで、シベリアの中小製材所の淘汰が進む可能性もある。アカマツ原板の本格交渉は冬伐り材の入荷(11月頃)を待って始まる見込み。9月以降の現地挽き完成品の入荷は急速に減少してくるので、国内需要次第であるが、雰囲気は変化する可能性は大きい。国内製材工場ではDIY/流通とも受注が落ちており、生産調整を行っている。高コストの原板が順次入荷しており、売値も下がることで採算は苦しくなる。8月の製品入荷(東京+川崎)は19千m³と高水準であるが、8月がピークである。出荷は13千m³と依然として低調、在庫は68千m³と増加しているが、9月以降調整されて、年末には適正在庫水準に戻ると見通される

5. 合板

合板用原木のスギは高値を継続。カラマツも高値を維持しているが、フェイス/バック用の米マツ入荷が増えているため不足感が弱まっている。米マツの入荷は増えているものの、産地価格の高止まりで合板メーカーからの引き合いは鈍い。

8月の国内合板生産量は24.0万m³、うち針葉樹合板は23.6万m³、出荷量は22.4万m³で在庫量は11.1万m³、うち構造用合板の在庫は9.2万m³と前月より増加。在庫率0.5ヵ月と依然として低水準。針葉樹合板の価格は10月も据置きとなり、天井感を迎えたことで引き合いが鈍化し、荷動きは停滞し始めている。メーカーでは在庫量が増えたことにより、残業時間を減らしたり、

構造用以外の生産を増やしたりして生産調整を実施する模様。直ちに減産が必要な在庫水準ではないが、先行き在庫が増加基調で推移することへの警戒感が働いたと見られる。輸入合板の荷動きは依然悪く、各港の在庫が出荷されない限り、新規発注ができない状態が続いている。8月の合板輸入量は22.8万 m^3 (前月比1.3万 m^3 減)で主要国からの輸入量は概ね増加。中国産は前月より減少し、針葉樹合板は8,400 m^3 (12mm換算42万枚)。インドネシアでは新規契約が少ないため今後減産措置を取る必要性が出ている。マレーシアでは受注の一服感があり、合板生産量の維持は不透明な状況。

6. 構造用集成材

ラミナ、輸入集成材とも港での保管が続いている。各社在庫状況により輸入材の仕入を減らす動きがある。ラミナの第3・四半期契約価格は m^3 当たり€430前後で前回と比べ約€100の下落。第4・四半期契約も€320~350と値下げになっているが、現状の在庫量を考慮すると買いづらい状況。現在の入港価格は第2・四半期契約分の€500~550近辺で港着価格は78,000~83,000円/ m^3 周辺。国内メーカーは第2・四半期分を通常の7割程度、第3・四半期は5~6割程度、第4・四半期は3割程度に押さえることで在庫量を調整する模様。

7. 木材チップ(東海)

チップ原木は製紙・バイオマス用とも引き合いは強い。解体材の入荷が低調で注文量をこなし切れない業者も散見される。今冬の集荷に各社警戒感が強い。製紙用の使用量は順調だが、東南アジアからの広葉樹チップの水分過多問題で各社頭を悩ませている。燃料用は解体系の入荷が落ち込み、冬場に向けて各社警戒感が強い。製紙・燃料用とも在庫の積み増しが例年以上に厳しく、燃料用の在庫が増えて行かない。

8. 市売問屋

市日に材木店の来場が少なく、平市では来場者無しが続いている。バタ角などの納材業者も置場が満杯であるため材の引き取りが悪い。構造材は国産材、外材とも荷動きは悪く、少量しか動かない。造作材は不足材が無く、市場内の動きも悪い。

9. 小売

例年この時期は需要期となり、市場や材木店も忙しくなるが、9月の荷動きは予想より良くなかった。10月以降は徐々に見積や注文が増えて来ている。未だに住設機器関連の納期遅れの影響がある。国産材は全体に弱含みでヒノキ構造材の落ち込みが大きく、スギ材との価格差が殆ど無くなっている。外材では、特にWW集成柱に荷余りの影響が出ている。リフォームは集合住宅を

中心に底堅いが、材木店はある程度在庫を抱えているため、新規の仕入は積極的ではない。WW 間柱材は弱基調で国産材との兼ね合いから下振れしている。

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	↘	→	→
	製材品	↘	→	→
北洋材	丸太	輸出禁止	*	*
	製材品	↘	↗	↘
南洋材	丸太	↘	↘	→
	製材品	→		

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

注) 北洋製材品は東京・川崎

2. 合板供給量

国内製造量	輸 入 量		
	計	インドネシア	マレーシア
↘	↘	→	↘

3. 価格動向

樹材種	形 状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材 (3m) 2等	→
			スギ中丸太 (3.65m) 2等	↗
			ヒノキ柱材 (3m) 2等	→
			ヒノキ中丸太 (4m) 2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱 (KD) 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ 3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角 12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	→
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	→
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角 (KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	↘
			SPF 2×4 J-Grade R/L	→
			米ヒバ土台角 (GR) Std&Btr 4・13/16” 13’	→
米マツ平角 (KD) 特等 10.5×24.0×4m	→			
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	→
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用	→
			メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→
	製材品	産地価格	ホワイトセラヤ 平割 (サバ州産)	↗
東京・問屋店頭 渡し価格		同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	↗	
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ (KD) 30×40上級	→
			アカマツ (KD) 16×40上級	→
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 3.0×10.5×3m S4S FOHC	↘
			ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	→
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	↘
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	→
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	↘
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	→
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
			型枠 12.0mm厚 3×6	↗
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	→